

特集：2016年「音の日」

第23回「音の日」のイベントと 第21回「音の匠」顕彰について

「音の日」実行委員長 森 芳久

2016年度の「音の日」は第23回を数え、昨年12月6日に目黒の雅叙園に於いて盛大にそのイベントを開催することができました。おかげさまで「音の日」の認知度も高まり、また反響も大きくなっていることを肌で感じるようになってまいりました。まずは冒頭にご参集いただきました皆様、またこのイベントにご協力いただきました業界団体各位、そして関係委員の皆様に厚く御礼申し上げます。



第23回「音の日」イベント

さて、「音の日」の恒例行事「音の匠」顕彰も昨年は第21回を迎え、また素晴らしい「音の匠」が誕生いたしました。第21回「音の匠」には、長年に亘り音叉の製作に取り組んでこられ、現在世界最高レベルの精度を持つ音叉を世に送りだされている株式会社ニチオン相談役、日本音叉研究所所長の本田 泰（ほんだ ゆたか）氏が、「音の日」実行委員会全員一致で推挙されました。

本田 泰氏は、自らを職人と称されるように、音叉作りを文字通り一から始められました。まだ国産の音叉など無い時代に、本田氏が言われる「当時日本に輸入されていた海外製品を見よう見まねで作上げた」ということです。技術解説書や文献の無い時代、手探りからのスタートで音叉作りに挑戦され、しかも先進国の優れた製品を追い抜くまでの忍耐と努力は想像を絶するものがあつたにちがいません。幾つかの幸運があつたとしても、それらをモノに出来るだけの知恵と経験、つまりそこには優れた技術者としてまた職人としてのセレンディピティが作用したのでしょう。

そして、本田氏の作られる音叉はその一本一本が職人の技による手作り製品です。また、その音叉を作るための校正用基準音叉もまたご自身で作られたものです。まさにこれは「音の匠」の世界です。尚、氏は長年に亘るその功績で平成 15 年黄綬褒章を受章されています。2016 年度「音の匠」顕彰式では、本田氏に表彰状、顕彰楯、そして副賞のオンキヨー製システムステレオセット、電波新聞社賞が贈られました。



日本オーディオ協会 校條 亮治 会長より
表彰状を受ける第 21 回「音の匠」本田 泰氏

顕彰式に続き、今回も「音の匠」特別講演会「音叉と音叉にかかわる『音』の話」が催されました。

本田氏は、先代のご両親と音叉作り一筋に励んでこられた、その幼少期から 84 歳を迎えられた今日までの歴史をとて判りやすく親しみを込めて語られ、素晴らしい職人の技と人間性が溢れたお話に会場全員が引き込まれました。

音叉といえば、まず楽器などのチューニングや理科の音響実験などに使われるものがほとんどだと考えられますが、現在最も需要が多いのは医療用音叉ということでした。

詳しくは、本号 43 ページ本田氏の「音叉と音叉にかかわる『音』の話」をお読みください。



「音の匠」特別講演会

今回もご好評いただいております「学生の制作する音楽録音作品コンテスト」を第3回として開催いたしました。昨年も質の高い作品の応募が増え、確実に若い世代の活躍ぶりを感じさせてくれています。詳しくは、52ページ「学生の制作する音楽録音作品コンテスト」(「音の日」実行副委員長穴澤 健明氏解説)の項をお読みください。

そして「音の日」の締めくくりは恒例の「音の日」つどいパーティーです。昨年も関係団体・会員はもちろん、一般オーディオファンの方々の参加もあり盛大に行われました。経済産業省からも伊藤 桂様、松木 ゆりか様2名のご参加をいただきました。この席でも「音の匠」の紹介また本年度のプロ録音賞受賞者の紹介などが行われ、会場は終始和やかな雰囲気にも包まれていました。



「音の日」つどいパーティーでのプロ録音賞受賞者の記念撮影